2号 ゆうこのおひさま通信
発行者　大林裕子連合後援会　会長　渡　辺　俊　治

大林裕子（ゆうこ）は魅力ある地域づくりに取り組みます

地域を活性化し振興を図る

父、**喬任**（元県議会議員６期）は吉岡村長を昭和４８年から１０年勤めました。その間、新幹線トンネル工事による榛東・吉岡の陥没や水枯れ対策をはじめ、下水道問題、道路整備、農業振興のため数々の施策を進めました。

高速道路を活かして、県都前橋を含め榛名東麓・北群馬郡全体という視点から都市計画策定を行いました。

また、地域経済の発展と農業経営の基盤も同時期に確立。ぶどうやイチゴのフルーツをはじめトマトやねぎ、乾燥芋等の観光の名産物は、水沢うどんやこけしと共に有名となりました。

この行動力・決断力の礎は、北群馬郡のリーダーとして人格・見識とも際立ち、人々の尊敬を集めていた**元県議会議員浅見一郎氏（榛東村）**の指導を受けての影響が大きいものであったと思います。（当時喬任氏は青年部部長）

父（喬任）から夫（俊一）へ

県道南新井・前橋線バイパスの整備は、駒寄ICの大型車対応工事と共に榛東村へ延伸をさせ、現在吉岡町陣場まで工事が進んでいます。さらに延伸し、榛名東麓フルーツラインまで前橋市、渋川市、高崎市を巻き込み、観光、産業の促進を進めてきています。（橙点線部）

これは、夫**俊一**（元県議会議員２期）が政策として掲げてきたものであります。

大林裕子は

父・夫の志を引き継ぎ、幹線道路の整備促進に取り組みます。

県道前橋・伊香保線バイパス（吉岡バイパス）延伸の早期着工に取り組みます。赤点線部は、上武国道（R17）のサントリー付近乗り降り口から、下野田と上野田交差点を通り、伊香保街道を一直線につなぐ道路です。

観光客の誘客、交通渋滞緩和を図るものです。

すでにある県道についても、歩道が整備されていない、街燈がない、また防犯カメラなど、子どもの通学の安全性に不安がある箇所についても積極的に整備していきます。